

覚醒下開頭腫瘍摘出術の1症例

安部伸太郎¹⁾， 仁田原慶一¹⁾， 安部 洋²⁾，
竹本光一郎²⁾， 井上 亨²⁾， 渡邊 淳子³⁾，
比嘉 和夫¹⁾

¹⁾ 福岡大学医学部麻酔科学

²⁾ 福岡大学医学部脳神経外科学

³⁾ 福岡大学病院リハビリテーション部

要旨：言語野に近接した脳腫瘍で覚醒下開頭腫瘍摘出術を受けた患者の麻酔管理を報告する。患者は36歳の男性で、左前頭葉から側頭葉の星細胞腫であった。右半側臥位の体位をとった後にプロポフォールとレミフェンタニルで麻酔を導入し、ラリングルマスクを挿入して気道を確保した。術側の前頭・耳介側頭・大小後頭神経をロピバカインでブロックした。手術開始前から、デクスメデトミジンの持続静脈内投与を開始した。手術開始から2時間30分後に、プロポフォールとレミフェンタニルの持続静脈内投与を中止し、5分後にラリングルマスクを抜去した。傾眠であったが呼びかけに応じることは可能で、言語野の同定作業が行われた。言語野の同定作業終了後に再びプロポフォールとレミフェンタニルで麻酔を導入し、ラリングルマスクを再挿入し、腫瘍が摘出された。術後の覚醒は良好であり、言語障害や運動・感覚麻痺などの神経脱落症状はなかった。

キーワード：覚醒下開頭腫瘍摘出術， 麻酔， 脳腫瘍， 言語野